

にこにこ



発行 子育て支援課 子育て支援係 TEL43-6111(内線1264) R2.8.31

子育て通信「にこにこ」は、胎内市ホームページからもご覧いただけます！



子育て支援サポート&子育てサービスのご紹介

子育て通信「にこにこ」では、毎月各地域子育て支援センターの利用の様子や、活動の紹介などを順番にご紹介しています。市では、地域子育て支援センターのほかにも“子育て家庭を地域のみんなで支える”サポート事業や、多様な保育サービスの提供を行っていますので、今月号では、その一例をご紹介します。

胎内市ファミリー・サポート・センター

地域において、子育て家庭の仕事と育児の両立を支援し、子育てしやすい環境をつくることを目的として、「子育ての応援を受けたい方(依頼会員)」と「子育ての応援ができる方(提供会員)」で行われている会員による子育て支援活動です。

どんなときに利用できるの？

- 仕事などで保育園や子ども園への送迎ができなくなったとき
- 急な家族の看護や冠婚葬祭等で子どもの世話ができなくなったとき
- 学校等の放課後に子どもを預かってほしいとき
- …その他にも依頼会員の必要に応じてサポート活動を行います。

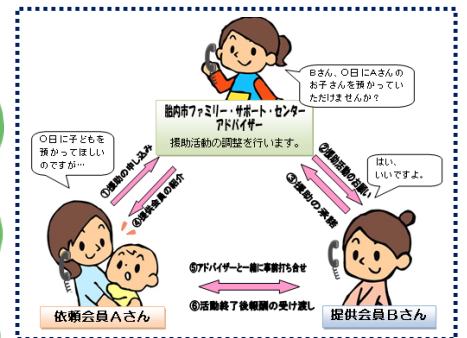
会員になるには？

- 依頼会員：おおむね生後3か月から小学校を卒業するまでのお子さんがいる方(ただし、特別な理由がある場合に限り、中学校卒業まで可能)
- 提供会員：心身ともに健康で子育て支援活動に理解と熱意のある方、自宅等で子どもを預かることができる方、入会後に支援活動に必要な講習を受けていただける方

利用時間・報酬は？

利用時間	依頼会員の利用料金	提供会員の受取報酬(※)
月～金 7時～19時	1時間あたり 400円	1時間あたり 700円
土・日・祝日 6時～21時	1時間あたり 500円	1時間あたり 800円
早朝 6時～7時		
夜間 19時～21時		

(※) 1時間あたり300円を市が助成します。



<問い合わせ・申込み>
胎内市ファミリー・サポート・センター
☎ 080-2074-7766

病児・病後児保育室「中条中央病院どんぐり園」

就労等により、病中または病後回復期のお子さんをご家庭で保育ができない場合にご利用いただけます。

- 開設日時 平日の8時から18時まで(土、日、祝日除く)
- 対象児童 市内に住所を有する生後6か月から小学校6年生まで
- 利用料金 1日2,000円(延長料金8時から8時30分、17時30分から18時までは200円)



事前に利用登録が必要です。
市役所子育て支援課に母子手帳と印鑑をご持参のうえ、申請してください。

<問い合わせ>
子育て支援課 ☎ 43-6111
「中条中央病院どんぐり園」
☎ 28-7001

一時保育について

求職活動や、病気、家族の看護、出産などのために、一時的に家庭での保育ができないとき、お子さんをお預かりします。実施している園に直接お申込みください。

○対象 市内に住所を有する就学前の子ども。預かりができる年齢は園によって異なります。

○実施園
公立：中条すこやか子ども園、ついじ保育園、黒川保育園
私立：ひだまり子ども園、さすげ子ども園、聖心子ども園

令和2年度「胎内市子育て支援事業」

親子ふれあい広場 開催中止のお知らせ

子育て支援の一環として毎年開催をしている『親子ふれあい広場』については、令和2年10月22日(木)の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止とさせていただきます。

『親子ふれあい広場』への参加を楽しみにされていた皆様には大変申し訳ございませんが、ご理解を賜りますようお願いいたします。

子育て家庭の災害対策について

9月1日は
防災の日



地震のみならず、豪雨による洪水や土砂崩れなどで避難を促されるケースも増えている昨今。緊急事態や災害は、いつ起こるか分かりません。子どものいる家庭でできる備えには、どのようなものがあるでしょうか。子どもがいるからこそ、あわてず対応できるよう日ごろから確認・準備をしましょう。

災害に備える「気持ちの準備」は？

POINT

災害は、「いつ何が起こってもおかしくない」と思って備えることが大切です！

普段の生活の一部に災害が起こることを想定して、備える必要があります。このような認識を、みんなで自覚していくことが大切です。

POINT

普段から子どもとのスキンシップを大事に！

突発的な災害が起きたとき、「子どもは黙っているけど、緊張しているのかな。」「我慢しているのかな。」など、子どもの立場になって考えることが必要になってきます。そのためにも、普段から子どもとスキンシップをとることが大切です。

避難用「防災リュック」を準備しよう！

POINT

女性が持って逃げられる重さは10kg程度です！

「家にストックしておくべきもの」と「持って逃げるもの」の区別があいまいになっている人も多いかと思います。「持って逃げるもの」は、女性だと10kgが限度です。3kgの赤ちゃんを抱っこすると、残りは7kgしか持ってません。それ以上持って逃げても、途中で捨てることになってしまいますので、厳選して持っていくようにしましょう。

「防災リュック」には何を入れる？

こちらを参考に、ご家庭に合わせた準備をしましょう！

- | | | | |
|-----------------|--------------|--------------------------|--------------|
| □非持出袋(リュックサック) | □手指用の消毒液 | □緊急医薬品(常備薬) | □雨具 |
| □レトルトタイプのベビーフード | □着替え | □母子手帳・健康保険証 | □ビニール袋・ジッパー袋 |
| □ミルク | □子どもの靴 | □ティッシュ | □新聞紙 |
| □使い捨て哺乳瓶 | □おんぶひも・抱っこひも | □トイレトーパー | □生理用品 |
| □紙おむつ・おしりふき | □歯磨きグッズ | □使い捨てグッズ(紙コップ・ラップ・食器用品等) | |

※ 子どもが普段食べている食べ物・お菓子や、普段遊んでいるもの(おもちゃや絵本)を用意しておくことも大切です。

